

E U R O P E A N P A T E N T O F F I C E

SOURCE: (C) WPI / DERWENT

AN : 78-52483A [29]

MC : C10-E02 C12-B04

PN : JP53066420 A 780613 DW7829 000pp

PR : JP760141123 761126

PA : (TAKS) TAKASAGO PERFUMERY CO LTD

DC : C03

IC : A01N9/26

TI : Agent for killing maggots - comprises thymol, which has low toxicity to humans

AB : J53066420 Thymol, although being long used as antiseptic, bactericidal and helminthic, is found to be effective for maggots of flies. etc. as deodorising agent, with decreased toxic effect on human beings. Thymol is formed in to an emulsion by dissolving in the same amt. of butanol or xylene and emulsifying with non-ionic or anionic surfactants, like polyoxyethylene sorbitan monooleate and phosphate

⑨日本国特許庁
公開特許公報

⑩特許出願公開
昭53—66420

⑪Int. Cl.²
A-01-N 9/26

識別記号

⑫日本分類 庁内整理番号
30-F 322 6516-49
30 F 922 7167-49

⑬公開 昭和53年(1978)6月13日

発明の数 1
審査請求 未請求

(全 2 頁)

⑭殺蛆剤

川越市寺尾 8-12

⑮特 願 昭51—141123

⑯出 願 人 高砂香料工業株式会社

⑰出 願 昭51(1976)11月26日

東京都大田区蒲田 5 丁目36番31
号

⑱発 明 者 三木康平

明 細 書

1. 発明の名称

殺 蛆 剤

2. 特許請求の範囲

テモールを有効成分とする殺蛆剤

3. 発明の詳細な説明

本発明はテモールを有効成分とする殺蛆剤に関する。

テモールは天然にはマダジャコウソウ油、アジロワン油の主成分であり、近年合成メントールの原料として石油製品より多量に製造せられるに到っている。テモールは防腐、殺菌性ある所より化粧品に添加したり、胃腸の不快発酵の薬の内服に用い、又駆虫効果のある所より桑虫、十二指腸虫の駆除に用いられていた。しかし本発明のごとき殺蛆効果を示すものは見当らない。

本発明者は産芥集積所や汲取式トイレの蝇の発生防止に有効な薬剤を研究中、テモールが殺蛆力強く、又その殺菌性の故に防臭効果もあり、人畜に対する毒性も小さく、殺蛆剤として適するこ

とを見出し本発明を完成した。

本発明においてテモールは約1000~2000 倍乳液として散布するのが好適である。勿論他の防臭、防虫剤との併用は差支えない。

テモールは結晶であるので同量のブタノール又はキシレン等に溶解して乳化するのが便利である。乳化に適した界面活性剤としては非イオン界面活性剤(ポリオキシエチレンソルビタンモノオレート、ポリオキシエチレンノニルフェニルエーテル等)やアニオン界面活性剤(硫酸エステル系)が好適で、その使用量はテモールに対し10重量位である。

つぎに実験例及び実施例を示す。

実験例

テモール10gのブタノール10g溶液に1gのツイン80(アトラス社製ポリオキシエチレンソルビタンモノオレート)を加え水にて所要濃度の乳液を調整する。供試昆虫はイエバエ幼虫を使用し、24時間浸漬法で効果を判定した。直径9mm×高さ5mmの黒高シャーレに乳液を5ml

乳注入し、供試虫を20頭づつ入れ25~27℃
の恒温槽で保存し、24時間後に致死虫数を観察
した。実験は5回反復実施した。その結果を第1
表に示す。

個所に散布する。

特許出願人 高砂 科工業株式会社

第 1 表

テモール乳液のイエバエ組に対する致死率(5回実験の平均値)

濃度(テモール1に 対する乳液量)	1000	2000	4000	8000	12000	16000
致 死 率(%)	100	86	48	25	7	0

第1表よりテモールのイエバエ組に対する $LD_{50}=5600$
倍乳液となる。

実施例

テモール 100部

キシレン 90部

ポリオキシエチレンノニルフエニルエーテル 10部

テモール結晶をキシレンに溶解し、この溶液にポ
リオキシエチレンノニルフエニルエーテルを加え
る。本品1部に水1000部の乳液として組の発生